

ワクチン接種のデメリット

※ ワクチンを接種した豚群においても、全ての豚が十分な抗体を得るとは限らないことから、野外ウイルスの侵入を許す可能性、また侵入時の感染豚の発見を困難にする。

(1) 緊急ワクチン接種（地域限定）

- ① 野外感染豚とワクチン接種豚との区別ができないことから、接種豚のトレーサビリティや移動制限等が必要になる
- ② 非清浄国となれば、他の非清浄国からの豚肉輸入解禁の圧力が強まる可能性がある
- ③ 消費者がワクチン接種豚の購入を控えることなど風評被害が生ずる可能性があり消費への影響が懸念される
- ④ 農家の飼養衛生管理水準を向上しようとする意欲がそがれ、アフリカ豚コレラ等の農場への侵入リスクが高まる可能性がある

(2) 予防的ワクチン接種（全国）

- ① 野外感染豚とワクチン接種豚との区別ができず、防疫に支障を来す（予防的接種は「特定家畜伝染病防疫指針」で認められていない）
- ② 非清浄国となれば、他の非清浄国からの豚肉輸入解禁の圧力が強まる可能性がある
- ③ 農家の飼養衛生管理水準を向上しようとする意欲がそがれ、アフリカ豚コレラ等の農場への侵入リスクが高まる可能性がある
- ④ 長期間のワクチン接種になれば莫大な費用がかかる

関係者間の合意形成が大前提